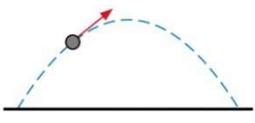


1 各教科におけるクロスカリキュラム（CC）学習展開例を紹介します。

① リレー形式： 数学×物理×体育 学習課題：「効率的に飛ばすにはどうしたら良いか？」

※学習内容を複数教科で平行に学ぶことで、各教科の学びがつながり、学力が効果的に定着します。

数 学	物 理	体 育
<p>①数学Ⅰ「三角比」 sin θ, cos θ, tan θ を用い、三角比の基本的な知識を習得する。</p>  <p>④「測定結果のグラフ化および考察」測定結果をグラフ化する。数回行った場合は平均を算出し測定値とする。シミュレーションした際の理論値と測定値を比較・考察する。</p>	 <p>②物理「物体の運動」放物運動および斜方投射の原理を学習し、コンピューターシミュレーションで様々な角度で投げ出された物体の運動を予測する。シミュレーションをもとに実際にボール投げをする時の条件・角度を設定する。理論値をもとに（問い）「効率よく飛ばすにはどうしたら良いか？」を考える。</p> <p>学習過程の中で深い学びに向けて、教師が投げかける「問い」 「何故45°が一番遠くまで飛ぶのか？」</p> <p>期待される生徒から生まれる新たな「問い」 「他の角度（75°）で投げた場合の飛距離はどのくらいになるだろうか？」</p>	<p>③体育「ハンドボール投げ」物理基礎の授業で設定した条件をもとにハンドボール投げを実践し（それぞれの角度で何回か行うとなお良い。測定結果をまとめる。</p> 

② TT形式 英語×化学実験「中和滴定」 学習課題「英語で中和滴定！表現の違いに着目しよう。」

※学習内容を複数教科で同時に学び、多角的な視点で学習内容を理解することができます。

<p>①化学基礎の「中和滴定」の方法および実験器具を<b>英語</b>で確認する。</p> <p>②既習知識から、必要な器具を判断、準備し、どの単語がその実験器具に対応しているのか考える。</p> <p>③実験方法については、これまでの知識から<b>英語の文脈</b>を予想して読み解く。</p> <p>④<b>英語担当教師</b>から<b>英語で実験手順</b>の説明を受け、生徒は単語を書いたプリントを持ち説明を聞く。</p> <p>⑤食酢を用いて、酢酸濃度に関する中和滴定実験を行う。</p> <p>⑥実験結果および実験の意義や実生活での活用方法を考え、<b>英語で説明する</b>。</p> <p>⑦実生活への活用方法については、グループ討議で意見交換を行い、視野を広げる。</p> <p>⑧日常生活において、疑問に思う事柄・事象を挙げ、予想し<b>英語でまとめる</b>。</p>	<p>English</p> 
---	--

③ 教科に捉われない複雑に絡み合った課題を複数教科で考える発展的CCの展開

※3年生では、学習の総まとめとして下記のような学習課題に取り組み、大学入試に備えます。

<p>【数学Ⅲ】エネルギー使用量等の統計データから予測した未来年表の作成。</p> 	<p>【英語表現Ⅲ】持続可能な社会と科学技術に関する論文を英語で読み解く。</p>
<p>【学習課題】 持続可能な社会の実現に向けて～科学技術の果たす役割～</p>	
<p>【地理B】温暖化による世界の海面上昇を考え、国別の影響を比較検討する。</p>	<p>【現代文B】同じ学習課題をグループ討議し、自分の考えを小論文にまとめる。</p>